

酪農家のみなさまへ

PAG 検査結果通知システム

（株）生乳検査センターでの
PAG 検査

- 検査料金 700 円/検体+税
- 検体送料 以下の場合無料
・生乳検査センター宛
・クーラーボックス利用
・5 検体以上（着払い）
- 検査日 毎週火曜日・金曜日
- 結果配信 所属農協宛 FAX
個人メール宛通知

検査センター

予め登録した
メールアドレスへ送信

生産者：関東太郎
[検体番号]12345678
[人工授精日]2024/11/1
[S-N] 1.333
[判定] + **イメージ**

酪農家

G メールはセキュリティ強化の関係で、結果が届かない場合があります。お困りの場合は他のメールアドレスへの変更を検討していただくようお願いいたします

PAG 検査 ～ 利用感謝キャンペーンのお知らせ ～

【対象期間】

2024年11月1日(金)検査から
2025年1月31日(金)検査まで

【内容】

**期間内の PAG 検査料を
10 検体分 無料**
最大 7,000 円お得!!



生乳検査センターからのお願い

サンプル着	検査日
火曜日※	金曜日
水曜日	
木曜日	
金曜日※	火曜日
土曜日	
日曜日	
月曜日	

■結果通知までの時間を短縮するため、前日までに検査センターへ届いたサンプルを使用して検査を実施します。
※栃木県内のサンプルは検査日 9:00 までに検査センターへ届くことから、検査当日着も検査対象となります。

2024 年 11 月から運用開始

問合せ 所属農協担当者へご連絡ください。

氏名や農協名の記載忘れ

ご注意ください
PAG 検査サービス 依頼書

(株)生乳検査センター TEL: 029-616-2880
(FAX: 029-613-6180)

送付先
〒
〒
〒

送付年月日 年 月 日

No.	検体番号	人工授精日	採取日
1		・	・
2		・	・
3		・	・
4		・	・
5		・	・
6		・	・
7		・	・
8		・	・
9		・	・
10		・	・

PAG 検体数 本

■お問合せ 生乳検査センター TEL: 029-616-2880
お申し込み可能な受付時間(受付時間)は、
乳牛から採取した乳汁をお取り下さい。
送付先は生乳検査センターに、栃木県検査センターに
FAX して下さい。
①サンプルの送付は生乳の状態で十分です。
②検体番号は必ずしも記入してください。
③検体番号は生乳検査センターの検体番号、牛の番号など
記載のものをご記入ください。
(欄外は特にアルファベットやひらがな、カタカナも可)

連絡事項



検体番号の記載忘れ
ご注意ください



サンプル採取



集乳ローリー経由
でCS等へ



5 検体以上の場合
は生乳検査センターへ
着払いでの発送OK

関東生乳販売農業協同組合連合会

酪農経営の収益性向上のため、PAG検査を活用してください!

管内の PAG 検査利用農家がメリットと感じていること

早期に妊娠診断ができる

直腸検査 授精後 50 日前後

PAG 検査 授精後 28 日目から
約 22 日早い

空胎であることがわかり、次の授精に向け対応が取りやすい

陰性の場合、獣医師と相談しホルモン処置を行い再授精するなどの対応を早期に判断できます。



空胎期間の短縮が図れる

直腸検査を行うことが難しい牛の妊娠診断ができる

- 流産しやすい牛
- あばれる牛

農家の傷害・事故防止

牛を追う必要がなく、ケガ等を防止できる。

乳牛にストレスがかからない

牛を保定したり、触診することがないことから、乳牛にストレスがかかりません。



作業時間が短縮できる

乳牛を捕縛・保定したり、獣医師が来るのを待つ必要がなく、作業時間が短縮できる。

管理がしやすい

「+」判定の場合、発情観察をしなければいけない牛の頭数を減らし、他の牛への観察に重点をおける。

他地域での事例



3 回妊娠確認実施
・妊娠早期・40-60 日
・妊娠中後期



1 回妊娠確認実施
・40-60 日



1 回妊娠確認実施
(人工授精師)
・60 日以降

28 日
(PAG)

60 日
(獣医師)

乾乳前
(PAG)

再授精・治療

【メリット】牛の拘束時間と拘束する頭数減
牛舎での作業時間短縮
獣医師は他の作業に従事できる

PAG 検査追加実施
・妊娠早期

【メリット】流産の見逃し減少
授精チャンス見逃し減少
不妊牛早期発見

PAG 検査を活用すれば

早期に空胎牛を確認でき、経済損失を軽減できます

PAG 検査とは、妊娠時のみ胎盤から分泌される糖タンパク(PAG: Pregnancy Associated Glycoproteins)の乳汁中の数値を調べることにより、妊娠/空胎の確認(あるいは妊娠継続確認)を行うものです。牛への負担もなく、妊娠確認の指標として有用です。

《経済損失のイメージ》乳用牛ベストパフォーマンス実現セミナー資料より

★考え方

- ・牛群検定成績表を活用
- ・牛群平均で分娩間隔 380 日(≒1 年 1 産)を達成すると、年間乳量は 305 日乳量とほぼ同等
- ・分娩間隔が 449 日、飼養頭数が 50 頭の酪農家だと、「年間 305 日成績(9,523kg)」から「経産牛 1 頭あたり年間乳量(9,061kg)」を差し引いた数量(462kg)が損失乳量となる
- ・乳価を 100 円と仮定

◆1 年あたり経済損失額

経産牛 1 頭あたり 46 千円

牛群 50 頭あたり 230 万円

主な Q&A



- ① 乳汁の量はどれくらいとればいいの？
- ② 乳汁採取時に注意すべきことは何？
- ③ すべての分房から採取する必要がある？
- ④ いつ乳汁を採取するのがいいの？

- ① 乳汁の量は容器の半分で十分です。
- ② A) 検査対象牛以外の牛の乳汁が混入しない
B) ゴミなどの異物が混入しない
C) 事前に数回搾った後の乳汁を採取
D) 腐敗ないように採取後は冷蔵/冷凍
- ③ 1 つの分房からの採取で OK
- ④ どのタイミングでも OK (前搾り時など)

